

前橋工科大学 シラバス

開講学科	建築学科	標準対象年次	選択/必修	科目コード	
科目名	建築デザイン実習	1年次	選択	14104401	
担当教員	石川 恒夫	単位数	学期	曜日	時限
		2単位	後期	木曜日	3, 4時限

授業の教育目的・目標

■関連科目との関係

習得期間 科目名	建築設計に関する最低限必要な技術・センス・教養を習得する期間				建築家志向のより高度な技術・センス・教養を習得する期間		
	建築設計基礎	建築デザイン実習	建築設計Ⅰ	建築設計Ⅱ	建築設計Ⅲ	建築設計Ⅳ	建築設計Ⅴ
習得内容	一般図トレース、図面読み取り能力、模型製作、作法、マナー	描画、基礎デザイン	設計過程、一般図、コンセプトメイキング、プレゼン、CAD	設計過程、一般図、コンセプトメイキング、プレゼン、CAD	左記の応用		
空間・造形センス	線・図形への意識	造形感覚・空間意識	身体感覚・空間意識	建築空間造形	左記の応用		都市への意識
建築に関する教養	ものづくりに対する心構え	デザインの意味	建築の見方・考え方	建築の価値	新しい建築の在り方		都市と建築の在り方
設計対象の身近さ			近				遠
設計対象の規模			小				大

目的：建築設計の原体験にある「ものづくりの喜び」を育むこと。

目標：図面や模型に成果をまとめるための、ものづくりの進め方を習得する。

学科の学習・教育目標との関係

- a. 自ら問題を発見し、自ら調べ、自ら考えて問題解決する能力を持つ。
- c. 記述能力、描画能力ものを作る能力を通して、自分の考えを表現することができる。
- d. 人間のスケールを実感として理解する。
- e. 素材の特性を理解し、適正に用いることができる。
- f. 機能と形態を結びつけて考えることができる。

キーワード

建築空間、光、スケール、プロポーション、模型、点・線・面

授業の概要

設計の実習に入る前段階にある1年生が、建築を構成する様々なエレメント——素材、プロポーション、光、形態——などを感性をとおして表現することを学ぶ。それら条件をいくつかのテーマに分けて、およそ10課題を学生に与える。学生自ら考え、スケッチやモデルをとおして解答し、造形力、論理力を養成する。随時、講評を行うことで、デザインとは何か、デザインの方法を具体的に理解させる。

授業の計画

- | | |
|-------|--------------------------------|
| 第1回： | セルリオのコリント式柱頭の模写 |
| 第2回： | 立体地図を描く(前橋駅—大学間) |
| 第3回： | 平面分割と立体構成【モンドリアンと黄金分割】 |
| 第4回： | 立方体のカッティング(石膏モデルの作成) |
| 第5回： | 曲面構成(テーマ:「包む」) |
| 第6回： | 建築空間への光の導入(モデル作成+インテリアのドローイング) |
| 第7回： | 色と平面の空間構成(テーマ:「静と動」) |
| 第8回： | フロッタージュ技法と建築壁面のテクスチャ |
| 第9回： | 建築事例のスライド講義 |
| 第10回： | 線材の構造的特徴を学ぶ。割り箸による塔のデザイン |
| 第11回： | 面材の構造的特徴を学ぶ。ダンボールによる空間デザイン |
| 第12回： | 浮遊感の表現:「動く彫刻(モビール)」のデザイン |
| 第13回： | 建築空間のシーケンスを描く |
| 第14回： | 建築記念碑のデザイン |
| 第15回： | 人生地図(自伝)の空間モデルの作成 |

受講条件・関連科目

受講条件：1年後期の授業であり、前期の建築設計基礎Ⅰの履修が必要。また後期に同時並行しての建築設計基礎Ⅱの履修が必要である。

授業方法

課題出題と説明、課題趣旨に関するスライドレクチャー、課題提出+作品鑑賞、課題講評といった要素の組み合わせから構成されている。

テキスト

成績評価

- ・期末試験 (%) ・レポート (%) ・その他(課題) (100%)
- ・小テスト (%)

履修上の注意

課題の趣旨を理解するための、下調べが大切である。